

一筆啓上

作左通信



第十二号 平成十四年四月十一日(木)

利根川とねに、春の暖かさを
感じた三月二日(土)、茨城県
取手市の「第三回頑固者賞
表彰式」に参加しました。

取手市は、本多作衛門の
終焉しゆうえんの地。宮地町が本多作
左衛門生誕の地であること
から、「作左の会」とは、三
年前から交流しています。

今回は、取手市立稲小いな学
校の六年生による本多作
左衛門の劇が市民会館で
行われるということと、と
ても楽しみでした。劇の前
に、稲小学校の先生方との
懇談がありました。六ッ美

西部小と違って学芸会はな
く、この劇を完成させるの
に、半年以上もかかったと
いうことです。

劇は、有名な「高札こうさつの話」
と「大釜(第三号)の話」の二つ。まず、
驚いたのは昔の街並みと
深々した森の背景画、そし
て、子供たちの衣装です。
本多作左衛門が生きてい
た時代の様子がよく分か
り、劇の雰囲気が大変盛り
上げていました。特に、主
君徳川家康が、観客席の入
口から堂々と家臣を引き
連れて入場してくる場面

は圧巻でした。大きな舞台
でありながら、子供たちの
声もはっきり分かりまし
た。作左衛門が、「天下を
いずれお取りになる方が
罪人を釜でゆでて殺すよ
うなことはしてはならな
い」と主君家康を説得し、
家康が涙しながら作左衛
門と握手をするシーンは
感動的でした。

続いて、「頑固者賞」の優
秀作品の表彰がありまし
た。今年のテーマは「地域」。
最優秀にあたる「頑固者
賞」の作品については、司
会者が朗読されました。一
般の部での、夫が妻の病氣
を治そうと夜、散歩をしな
がら空き缶拾いをするこ
とを通して、お互いの会話
が増え、そのことが街の美

化へ、さらには美しい日本
をつくる小さな力になる
という作品は、とても心温
まる内容のものでした。
最後は、「世志凡太せしぼんたさん
のトークとコンサート」が
行われ、軽妙なお話と楽し
い音楽で、会場は大変盛り
上がりました。

非常に得るものが多か
ったこの表彰式の内容を
参考に、これから「作左の
会」にもぜひ、生かしてき
たいと思います。



▲ 迫力ある演技をする稲小の子供たち